様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １４ 日現在

機関番号：３３１０４
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１６７８８

研究課題名（和文）ポスト・インダストリアルのアトランティック・カナダ文学―リチャーズを中心に

研究課題名（英文）Atlantic Canadian Literature in the Post-Industrial Age

研究代表者
荒木　陽子（Araki, Yoko）

敬和学園大学・人文学部・准教授

研究者番号：９０５１１５４３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　900,000円

研究成果の概要（和文）：　研究期間に行った国内外の研究発表やシンポジウム企画・講演、海外研究者・作家等（トニー・トレンブレー、アレクサンダー・マクラウド）の招聘イベントを通して、これまで日本に紹介されてこなかった産業空洞化以後の現代アトランティック・カナダ像を日本の研究者、および筆者の勤務校のある新潟県新発田市周辺の学生および住民に紹介し、当地を含む日本の周縁部でも重なる状況も多い、同地域への関心を高めることができた。研究全体の成果に関しては、エコクリティシズム研究学会よりサポートを得て現在単著書『カナダ沿海諸州の文学風景の変容――二つの世紀末と水辺、田園の向こう側へ』（仮題、英宝社より出版予定）を編集作業中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究学術的成果は、19世紀の田園イメージが支配的な日本におけるアトランティック・カナダの文学イメージを、産業化、産業空洞化を経て、失楽園化した21世紀の同地域の文学イメージをもってアップデートしたことにある。また、カナダにおいては著名なデイヴィッド・アダムズ・リチャーズや、ジョナサン・キャンベルといったアトランティック・カナダと産業、そして環境の問題に取り組む作家たちを日本の研究者や読者に初めて紹介したことでも意味深い。社会的意義としては知的刺激に乏しい阿賀北地域に外国人研究者や作家を呼び公開イベントを行うことで、国境を越え地域住民と「地方の衰退」という問題を共有できたことがあげられる。

研究成果の概要（英文）：　This project has successfully introduced new landscapes represented in the contemporary Atlantic Canadian Literature in the post-industrial age to Japanese scholars and readers. Beyond its gentle and rustic image based on the 19th century's Prince Edward Island popularized by L,M. Montgomery's Anne of Green Gables, the literature studied in this project captures the rough post-industrial images. Often in the literature, the region's nature is damaged by its industrialization and the region is deserted after the de-industrialization. The outmigration of its younger generation is often observed.
　My international conference presentations and local events with international guests in Shibata, a rural community in Niigata, in particular, allowed us to share the information and feelings among those who are familiar with the difficulties of deindustrialized rural communities beyond our political borders.

研究分野：カナダ文学

キーワード：カナダ文学　アトランティック・カナダ　産業空洞化　環境

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

20 世紀末以降アトランティック･カナダ文学は､本研究の中心である David Adams Richards や Alistair MacLeod らベテランの著作に加え､1960 年代生まれの若手作家の作品もカナダ国内で次々とベストセラーとなっていた。この状況を受け、同分野の研究は 2000 年代に入ると､David Creelman が上梓した *Setting in the East* (McGill-Queen's UP, 2003)以降､Danielle Fuller 著 *Writing the Everyday* (McGill-Queen's UP, 2004)､Herb Wyile 著 *Anne of Tim Hortons* (2011)と研究書の出版が続き、活況を呈していた。

日本における同分野の状況に目を向けると、この時期に至っても一世紀以上前のアトランティック・カナダを舞台とする『赤毛のアン』の出版百周年に沸く一方で、ここに至り 1960 年代末より執筆を続けていたベテラン作家 Alistair MacLeod の著作がついに訳出されたことは特筆すべきであった。しかし、本国では MacLeod を超える評価を受けていた Richards の作品については、翻訳、研究ともになされない状況であった。

特に Richards の作品研究については、カナダ本国においても遅れており、特にその作品をエコクリティカルに分析するものはなかった。また、アトランティック・カナダ文学を環境に焦点をあてて研究する場合、しばしばそれは主としてノヴァスコシア州の漁業と鉱工業（及びそこから派生した製鉄業）がその中心に配されることが多く、Richards の作品に描かれる林業とそこから派生した製紙・製材業に焦点があてられることはほとんどなかった。

以上のような背景から、研究代表者は本研究の着想を得た。

２．研究の目的

(1) エコクリティカルな視点から、Richards が産業空洞化の時代、特にポスト・インダストリアルのニューブランズウィック州を描く小説を研究し、近年活況を呈している現代アトランティック・カナダ文学研究の欠落点を補完すること。

(2) 情報量の少なさから日本国内における研究が遅滞するアトランティック・カナダの現代作家を紹介し、日本語で紹介されるカナダ文学、ひいては英語圏文学の多様化につとめること。

３．研究の方法

(1) 平成 28 年度

（前期）

- 3 件の学会発表の準備を通して、日本におけるアトランティック・カナダ文学研究の現状を把握。
- Richards の創作背景、小説 *Mercy Among the Children*、*The Friends of Meager Fortune* を中心に、先行研究調査を行い、Tony Tremblay 著 *David Adams Richards of Miramachi* (U of Toronto P, 2010)等、国内から発注・ILL 申請可能な場合早速に行う。先行文献調査、所蔵先検索には、所属機関のデータベースの他。MLA International Bibliography および World Cat 等を使用。また、5 月 The 3rd Atlantic Canadian Studies Conference、6 月 The 43rd ChLA Annual Conference にて渡航時に、研究コネクションづくりを行った他、現地図書館等で入手困難な資料を入手し整理し、入手した先行文献を精読・分析。
- *Mercy Among the Children* を精読（訳読）・分析。
- 研究の理論的な基盤とするエコクリティシズムに関して理解を深めるため、先行文献を入手、精読。
- 次年度出版予定だった共著書『エコクリティシズムの波を越えて』の原稿を執筆、入稿。

（後期）

- 分析結果を学術論文としてまとめ、投稿、発表の上、次年度の学会、シンポジウム発表に向けて、発表プロポーザルを執筆。
- *Mercy Among the Children* に関する研究成果を次年度の学会発表、論文作成に向けて原稿化。

(2) 平成 29 年度

(前期)

- 前年度の研究成果と合わせ、*Mercy Among the Children* と *The Friends of Meager Fortune* を精読(訳読)・分析し、6 月の第 35 回日本カナダ文学会年次研究大会シンポジウム、7 月の The 10th Thomas Raddall Symposium of Atlantic Canadian Literature に向けて学会発表の原稿を執筆し、研究成果を発表。
- 次年度の講演会講演者を Thomas Raddall Symposium の講演内容から Richards 研究者の

Tremblay に確定し、日程、内容等を打ち合わせするとともに Richards に関して取材。学会、所属校、並びに研究者に Tremblay を招聘するイベント、シンポジウム等の開催の打診。

(後期)
・6 月と 7 月のシンポジウム発表の原稿を再検討し、学術論文として投稿、発表。7 月のシンポジウム原稿に関してはさらに推敲して、3 月の Anglo American Literature/Culture, and Education 招聘発表の準備。
・論文「ダグラス・コープランド文学における環境表象の起源と発展」の執筆過程で、作家の出身地域は異なるものの、カナダの他地域の環境表象、およびカナダのエコクリティシズム全般について学識を深化。

(3) 平成 30 年度

(前期)
・Larissa Lai の作品に現れるアトランティック・カナダへの言及を検証し、5 月の Atlantic Canada Studies Conference で発表。6 月に日本カナダ文学会会員および所属校の協力を得て、日本カナダ文学会にて Tremblay 講演会、およびシンポジウム「産業・環境・カナダ文学」、ならびに新潟、愛知、大阪で Tremblay 氏の講演・講義を企画・実施。特にニューブランズウィック州およびその森林資源を利用した産業の推移や、同州の文学について、知見を深化し、広く知識を共有。
・共著書『トランスパシフィック・エコクリティシズム』への寄稿を目指し、前年度執筆のダグラス・コープランドに関する論文を推敲、大幅に改定し研究を深化。

(後期)
・これまで執筆した論文を再構成し、出版予定の書籍の一部として校正する他、最終年度に向けた研究資料を整理。
・次年度のシンポジウム発表に向けて精読済みの *The Friends of Meager Fortune* に加え Jonathan Campbell の *Tarcadia* (2004)を精読し、比較研究。

(4) 令和元年度

(前期)
・7 月に Alexander MacLeod を所属大学に招聘し講義を請い、学生や地域住民とともに、現代アトランティック・カナダを代表する詩人 George Elliott Clarke について知見を深化。
・前年度後期に続き、エコクリティシズム研究学会シンポジウム発表準備、発表。

(後期)
・前期のシンポジウム原稿を 2 本分の論文として再構成し投稿。
・これまでの研究成果をまとめるために、ウェブページを作成開始するほか、論文を推敲、再構成し、令和 2 年 9 月までに単著書として編纂し、入稿することをめざす。

４．研究成果

（まとめ）
研究期間に行った国内外の研究発表や、海外研究者・作家等（Tremblay、MacLeod）の招聘イベントを通して、これまで日本に紹介されてこなかった産業空洞化後の20世紀末以降の文学に描かれる現代アトランティック・カナダ像を、日本の研究者、および筆者の勤務校のある新潟県新発田市周辺の学生および住民に紹介することができた。さらに、カナダ文学会会員の協力で大阪、名古屋など日本各地の大学でイベントを開催し、同地域に関する関心を高めることができた。
本研究の結果、小説中に描かれる現代アトランティック・カナダ像の中心は、20世紀までの地域表象にしばしば見られた「美しく豊かで風光明媚な風景としての自然」ではなく、地域の基幹産業が依存する資源であると同時に、しばしば人間の経済活動の結果破壊された一種のディストピアとして表象されることが分かった。また、Richards以外の現代作家によって執筆された小説も、覆い隠された過去のトラウマや主として人種・階級・エスニシティ、そしてセクシュアリティの多様性に対応できないことに起因するコミュニティの歪みを可視化して描くために、しばしばゴシックやグロテスクという表象手法に訴えることが明らかになった。加えて、資源依存型の地場基幹産業（鉱工業とそれに派生する製鉄業、森林依存産業）の衰退後の地域の自然環境、社会環境の認識にも共通性がうかがわれ、自然環境の破壊が基幹産業を含む社会環境、家庭環境の崩壊をよび、地域から次世代の若者が流出するというエコシステム認識もおおむね作家間で共有されている。

しかしながら、しばしば基幹産業の衰退や、保守的かつ選択肢の少ない地域からの若者の流失を、地域のマジョリティである白人男性作家たちが悲劇として美化して描く一方で、アトランティック・カナダにルーツの一部を持ちながら、その枠に収まることを良しとしないMacDonaldやLaiら人種的、性的マイノリティの女性作家たちは、白人男性を中心に形成された地域の性格を、マイノリティを抑圧する「パワー」としてネガティブにとらえる。そして、彼らは若者の地域からのアウトマイグレーションを保守的な構造からの解放として肯定的に描くのである。

以下に年度ごとの研究成果を簡単にまとめる。

(1) 平成 28 年度

Richards 著 *Mercy Among the Children* の精読分析を行うともに、前期は日本におけるアトランティック・カナダ文学研究の現状の把握に努め、分析結果を Atlantic Canadian Studies Conference、ChLA Annual Conference、および日本カナダ文学会（シンポジウム）で発表し、後期はその一部を含む論文 1 篇を『カナダ文学研究』に出版した。

(2) 平成 29 年度

当該年度は Richards の *The Friends of Meager Fortune*(2006)の精読する一方で、前年度に精読した *Mercy Among the Children* について学会発表（シンポジウム）を行った。同発表では、*Mercy Among the Children* 同様にゴシック的要素の強い MacDonald の小説 *Fall on Your Knees* (1996)を比較対象として研究しながら、日本カナダ文学会（シンポジウム）の他、 Thomas Raddall Symposium of Atlantic Canadian Literature、Anglo American Culture/ Literature, and Education（招聘）において発表をおこない、特に Anglo American Culture/ Literature, and Education では教育系を含む多様な分野の研究者にアトランティック・カナダの現代作家を紹介することができた。発表した原稿は論文 2 件にまとめた他、共著書『エコクリティシズムの波を越えて』に Alistair MacLeod についての考察を発表。また、国際学会参加時には次年度に招聘予定の講演者の調整を行い、平成 30 年度に Tremblay を招聘してイベントを行うこととした。

(3) 平成 30 年度

当該年度は上記２．研究の目的(2)に挙げたその他のアトランティック・カナダの現代作家として、通常は西海岸拠点の中国系レズビアン作家として研究されることの多い Larissa Lai の詩を中心に研究の上、Atlantic Canada Studies Conference で発表することで、アトランティック・カナダの作家の多様化に努めた。ニューファンドランドで育ったにもかかわらず、本人はそのことについて多くを語らず、研究者もその事実を無視する傾向は「アトランティック・カナダ」という記号が、「中国系」や「レズビアン」という記号と結びつきにくい恣意的な状況があることが明らかにされた。

また、これまでの研究結果を共有し、さらに研究を深めるために、研究者向けに日本カナダ文学会年次研究大会シンポジウム「産業・環境・カナダ文学」を企画・司会するとともに、と学生・地域住民向けイベント（新潟県、愛知県、大阪府）を企画・実施し、カナダより Richards およびニューブランズウィック研究の第一人者である Tremblay を招聘し、Richards の作品背景となるニューブランズウィック、ならびにその森林資源を利用した産業の栄枯盛衰に関して教えを請うことができた。

さらに、作家の出身地域は本研究とは異なるものの、Douglas Coupland の環境表象について研究、論文執筆する過程で、カナダの他地域の環境表象、およびカナダのエコクリティシズム全般について知識を深めることができた。

(4) 令和元年

前年度にエコクリティシズム研究学会より「カナダの資源と環境」というテーマの元、シンポジウム参加の要請があったため、遅れ気味の研究をすすめるとともに、本研究を充実させるべく期間を延長した。また、同学会会員による共著書『トランスパシフィック・エコクリティシズム』に、前年度『人文社会科学研究所年報』執筆し、当該年度出版となった Coupland に関する論文を大幅に改定し、「ダグラス・コープランド文学における閃光・爆発・きのこ雲」を共著書『トランスパシフィック・エコクリティシズム』の一部として出版することができた。

また、延長された期間を有意義に使うため、カナダより来日中であった作家およびカナダ研究者 Alexander MacLeod を迎え、所属機関の学生および地域住民に向けて、上記２．研究の目的(2)に挙げたその他のアトランティック・カナダの現代作家として Clarke について講演を賜り、知見を深めることができた。前述のエコクリティシズム研究学会シンポジウムでは、平成 29 年度に精読済みの Richards の *The Friends of Meager Fortune* と上記２．研究の目的(2)に挙げたその他のアトランティック・カナダの現代作家として Jonathan Campbell をとりあげ、彼の長編小説 *Tarcadia* (2004)を精読の上比較し研究発表を行い、令和 2 年に所属大

学の紀要と、同学会の機関紙『エコクリティシズム・レヴュー』上に 2 本の論文を出版した。

当初予定した Richards の *Mercy Among the Children* および *The Friends of Meager Fortune* の訳出、単著書の執筆・出版計画、および研究成果発表用ウェブサイト（arakiprojectno2.jimdo.com）の制作は現在も進行中である。未完となったものの、翻訳に取り組むことで、森林・林業・材木・製紙業で使用されている専門用語を業界内部の人物から時間をかけて学ぶ必要があること、またカナダと日本において同様業種であっても、手法の違い等から同等の語や概念が存在しない、ないしは存在したとしても訳語が日本語に存在せず、翻訳が非常に難しいことが分かった。このことから、今後、日加の実業界の森林依存産業経験者から学ぶ必要性や、日加双方の森林資源を利用した産業の在り方や手法を比較研究し、適切な言葉を見つける、ないしは創造して行く必要性が明らかになった。このように、訳読の試みの成果として、完訳はなされなかったが、今後の研究発展性や方向性が可視化される結果となったことを、文末に書き加える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 荒木　陽子	４．巻 26
２．論文標題 <特集論文　産業・環境・カナダ文学>　概要	５．発行年 2018年
３．雑誌名 カナダ文学研究	６．最初と最後の頁 １３－１５
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 荒木陽子	４．巻 15
２．論文標題 『赤毛のアン』から『花子とアン』へ――『赤毛のアン』出版百周年と村岡花子リバイバル――	５．発行年 2017年
３．雑誌名 人文社会科学研究所年報	６．最初と最後の頁 115- 29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://www.keiwa-c.ac.jp/thesis/2017/06/30/42975.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 荒木陽子	４．巻 25
２．論文標題 沿海諸州をゴシック化する――ポスト・インダストリアル時代の沿海諸州表象――	５．発行年 2017年
３．雑誌名 カナダ文学研究	６．最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 荒木陽子	４．巻 27
２．論文標題 アン・マリー・マクドナルド作品群(1990-1996)に関する覚書 ――小説『ひざまづいて』とふたつの戯曲の関連性をめぐって――	５．発行年 2018年
３．雑誌名 敬和学園大学研究紀要	６．最初と最後の頁 61-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://www.keiwa-c.ac.jp/thesis/2018/02/28/46707.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 荒木　陽子	4．巻 ２４
2．論文標題 ステレオタイプをパロディする――近年のアトランティック・カナダにおける映像作品に関する考察――	5．発行年 2016年
3．雑誌名 カナダ文学研究	6．最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 荒木　陽子	4．巻 29
2．論文標題 アトランティック・カナダの資源と環境 －リチャーズの『薄幸の友』を中心に	5．発行年 2020年
3．雑誌名 敬和学園大学研究紀要	6．最初と最後の頁 89-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://www.keiwa-c.ac.jp/thesis/2020/02/28/57387.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 荒木陽子	4．巻 13
2．論文標題 アトランティック・カナダの資源と環境 ――ジョナサン・キャンベルの『ターケイディア』をめぐって	5．発行年 2020年
3．雑誌名 エコクリティシズム・レヴュー	6．最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://www.ses-japan.org/review_title.html	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 荒木陽子	4．巻 17
2．論文標題 ダグラス・コープランド文学における 環境表象の起源と発展 ――エッセイ「黒いどろどろ」を中心に――	5．発行年 2019年
3．雑誌名 人文社会科学研究所年報	6．最初と最後の頁 87-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://www.keiwa-c.ac.jp/thesis/2019/06/30/53002.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　1件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 Yoko Araki
２．発表標題 Talking through the Absence: Larissa Lai in the Atalntic Canadian Context
３．学会等名 Atlantic Canada Studies Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 荒木陽子
２．発表標題 （ポスト）インダストリアル・マリタイムスを描く：ゴシック的表現手法とその機能
３．学会等名 日本カナダ文学会第5回年次研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yoko Araki
２．発表標題 A Response from Another ‘Eastern Edge’: Using Waterfront Views in an English Classroom in Japan
３．学会等名 The Tenth Thomas Raddall Symposium（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yoko Araki
２．発表標題 Brushing up on the Basics: Learning Waterfront Views with the Second-Year English Students in Niigata
３．学会等名 Anglo American Literature/Culture, and Education（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yoko Araki
２．発表標題 Behind the ‘English-Atlantic Canadian Literary Renaissance’: The Power of Anne and the Aftermath of Her Centennial in Japan
３．学会等名 The 21st Atlantic Canada Studies Conference（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yoko Araki
２．発表標題 Animating the Translator: The Power of Anne and the Aftermath of Her Centennial in Japan
３．学会等名 The 43rd Annual Children’s Literature Association (ChLA) Conference（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 荒木　陽子
２．発表標題 ステレオタイプをパロディする：近年のアトランティック・カナダを舞台とする映像作品にみる日本におけるアトランティック・カナダのイメージとの距離
３．学会等名 日本カナダ文学会年次研究大会
４．発表年 2016年

１．発表者名 荒木陽子
２．発表標題 アトランティック・カナダの資源と環境―― リチャーズとキャンベルを中心に
３．学会等名 第32回エコクリティシズム研究学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

1．著者名 塩田弘、松永京子他	4．発行年 2017年
2．出版社 音羽書房鶴見書店	5．総ページ数 183-198(総436)
3．書名 『エコクリティシズムの波を超えて』	

1．著者名 伊藤紹子、一谷智子、松永京子他	4．発行年 2019年
2．出版社 彩流社	5．総ページ数 293-307(総360)
3．書名 『トランスパシフィック・エコクリティシズム』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考